

秋田県鹿角市地域DMO体験プロジェクト

プログラム概要: 7月下旬から8月初旬に事前学習を行った後、8月中旬に秋田県鹿角市を訪問、宿泊施設での本物の集客の立案、道の駅での集客プランを企画。成果報告会で発表。

実習先 : 道の駅あんとらあ、ホテル鹿角、感動鹿角パークホテル(秋田県鹿角市)

参加人数: 12名

学部学科: アントレプレナーシップ、ウェルビーイング、会計ガバナンス、経営、サステナビリティ、データサイエンス、日本語コミュニケーションの各学科

実習期間: 令和6年8月13日～8月20日

本学担当教員: 鈴木純一(会計ガバナンス学科)

○はじめに

私たちは鹿角FSを通して、鹿角市の関係人口の増加や観光消費額の増加のための取り組みを学ぶことができました。また、日本でも屈指の伝統的なお祭りの1つである「花輪ばやし」への参加を通して、地元の方々と交流することができ、花輪ばやしの歴史や参加者ならではの思いをお聞きすることができました。

○実習内容

台風の影響で鹿角入りするタイミングが1日遅れとなったものの、8月14日の鹿角市内見学から活動を開始しました。八幡平山頂、八幡平ビジターセンター、尾去沢鉱山跡、道の駅かづのあんとらあ、花輪スキー場、大湯環状列石、道の駅おおゆなどを1日かけて巡りました。特に記憶に残っているのは尾去沢鉱山跡です。

尾去沢鉱山跡では、江戸時代から閉山する明治までの鉱山資源の採掘方法の違いを見ることができました。江戸時代は手掘りで掘り進めていた様子が見られた一方で、技術革新後の明治時代は電動の採掘機で採掘し、採掘した資源が電車で鉱山内を運び、エレベーターで鉱山上部に運び、また電車で鉱山の外に運ぶ、そんな様子を見ることができ、日本の技術の進歩を1つの場所で見ることのできる非常に貴重な場所だと感じました。

8月15日から17日は、「道の駅かづの あんとらあ」「ホテル鹿角」「感動鹿角パークホテル」に分かれて活動しました。「道の駅かづの あんとらあ」では初日から店頭スタッフとして立ち、調査員としてお客様に対してアンケート調査を行いました。2日目と3日目は鹿角市における観光消費額の増加を目指した観光施策の考案をしました。「ホテル鹿角」と「感動鹿角パークホテル」では実際に行われるイベントを企画しました。

8月19日、20日は日本屈指の伝統的な祭り「花輪ばやし」に参加しました。「花輪ばやし」では深夜まで、屋台を押したり引っ張ったり、太鼓を叩いたり、踊りを踊ったりしました。そこでは長年参加している地元の方々にしかならない魅力や慣習を教えていただくことができました。また実際に祭りに参加してみたことで、多くの見物客を魅了する理由が、参加している人の熱量や雰囲気、そして何よりも自らが楽しむ姿勢にあると感じました。

○提案・発信したこと

「道の駅かづの あんとらあ」では、初めはDMOらしい観光施策を考えようと思いましたが、皆でここで挑戦しようということになり、「鹿角well-being計画」という施策を考案しました。この計画では、鹿角市の持つ雄大な自然を武器に、他の自治体の有する観光資源と正面から戦うのではなく、鹿角独自の路線を歩むべきだという考えから考案されたプランです。今後、「観光地」という見せ方で他の観光地と戦うことは上策ではないと考え、観光するのではなく鹿角市という環境に3日間身をおくことで都会の忙しさから距離をとり、本来の自分に気付き、人生をより良い状態にすることを目的としています。ウェルビーイング黎明期である今、他の自治体よりも先手を打ってウェルビーイングというワードの第一想起として鹿角市があげてもらえるような未来を目指しました。

「ホテル鹿角」では、冬に行われる雪まつりで行うイベントとして、「人間カーリング」というイベントを考案しました。イベント1つ考える場合にもスケジュール管理や予算管理など、いくつもの要素を踏まえて取り扱わなくてはならず、イベント企画の現場でしか分からない貴重な経験をさせていただきました。

「鹿角パークホテル」では、「BeautyFesta」というイベント考案を行いました。このイベントは、「和一心ほどけるひとときを」をキャッチコピーに、女性に向けた鹿角市の更なる知名度向上に向けた施策です。鹿角市は、現在特に若い女性の人口流出が大きな課題として挙げられており、それに対する対策として多少なりとも貢献できるような提案となったと思います。

○経験したこと、学んだこと

10日間の鹿角FSでは、地域のコミュニティと深く関わることができ、また、伝統文化や歴史を発見することができました。特に貴重な経験だと感じた事は花輪ばやしへの参加でした。鹿角市の伝統行事に参加することで地域の文化や歴史を肌で感じ、各町ごとの一体感を感じました。短い練習期間のなかで町の方々に親切にしてもらいました。普段の生活では感じる事ができない太鼓や笛、三味線が鳴り響く中で地域の方々と交流する経験は自分自身にとって新しいことであり様々な学びをもたらしました。

昼間の道の駅やホテルでの活動では、本当のイベント企画の楽しさと難しさを実感することができ、また自分たちの課題解決能力の向上に繋がったと思います。

参加を通して、地元の方々が日常生活で見過ごしがちな美しい風景や資源こそが鹿角にとっての貴重な宝だと思いました。新しい視点として、新たに鹿角に来る方にこうした魅力を伝えて行きたいと感じています。

○今後の展開

冬に開催する企画があるため、引き続き鹿角の方々と学生同士でしっかりと連携を取り実現していきたいと思えます。また、鹿角の魅力を多くの人に知ってもらえるように、SNSを活用して発信していきます。

○まとめ

鹿角市職員の方々、あんとらあの方々、宿泊施設の方々、地域の方々の皆様には、色々な鹿角市の魅力や学びを教えてくださいました。このような貴重な体験をありがとうございました。10日間という長いようで短かった中で、ただ正解があることを学ぶのではなく自分たちで実際に考えて行動し色々な経験を積むことができました。今回で学んだことを今後活用していきたいです。

○担当教員コメント

毎年、定員を上回る応募者が集まる鹿角FSですが、今年は特にチームワークの良さと大胆かつ徹底的に議論された企画立案力が印象的でした。大勢の来場者、多額の消費額ばかりを目指すのではなく、地域の魅力をゆったりと味わってもらえる持続可能な企画、地域の人たちに真っ先に楽しんでもらえるイベントなど、従来の観光志向のFSとは一味も二味違った内容になったと思います。夏の間だけの活動に止まらず、秋から冬にかけてのイベントが企画されているので、今後も鹿角市との絆を大切にしてください。

○実習先コメント

毎年、定員を上回るほどの多くの学生が鹿角市のプログラムを希望されていることを大変嬉しく思います。そのような中、本市での活動に熱い思いを抱いてお越しいただいた皆さんの姿を見ますと、インターンシップに汗をかき、花輪ばやしの受入町内の方々との交流を深め、そして、限られた時間の中で鹿角の魅力を発見し、地域活性化に向けた斬新なアイデアを真剣に考えてくださった姿に感銘を受けました。提案された内容は、本市が目指すべきまちづくりの方向性にも近く、大いに参考にすべきものと考えています。鹿角家の一員となった皆さんには、今後も鹿角で活躍できる場を多数提供してまいりますので、まずは来年度のフィールド・スタディーズ発展へのエントリーいただき、本市の更なる魅力を掘り起こしていきましょう！皆さんの更なる活躍を期待しています。

